



TWINCLE

Twin College Envoys Program



第4章

グローバルジャパンカリキュラム





カリキュラムの狙いと構成

ツインクルプログラム実施にあたり実質化のためにグローバルジャパンカリキュラムを開設した。

グローバルジャパンカリキュラムは大学院と学部の両方で行う特別授業であり、渡航前教育、現地での教育体験、事後評価でカリキュラムを構成している。



渡航前教育としては院生がペアで授業開発を行うためのグローバルジャパン授業研究、外国語能力を向上するための授業、現地での教育活動のための日本語、日本文化教育がある。

グローバルジャパン授業研究では

現地活動としては、授業開発したペアはASEAN諸国の小中高校での教育体験を行う。ASEAN諸国での活動は帰国後、報告会において発表し、その内容を評価する。さらに外国語力の達成度をTOEICにより評価する。

この結果、グローバル人材として十分な能力ありと認められたものには、受講証明を行う。

単位認定は教育学研究科および教育学部で行い自由選択科目として卒業要件の履修単位として加えることが可能である。また、他研究科および学部生は自由選択科目として卒業要件の履修単位として10単位まで加算することが可能です。

英語

英語授業は、ブリティッシュカウンシルに委託し、学生にできるだけ本物の英語に触れさせるようにした。授業内容は、英語で授業するために必要な英語表現などTWINCLEプログラムの趣旨に合致したものである。40名の学生をおよそ半分に分け、少人数授業とした。授業は一回当たり90分であり、計15コマ行った。授業日程は以下の通りである。

また、授業テーマの発表や、授業計画の発表なども英語で行うことで、英語に触れさせる時間をできるだけ多く確保した。

		8:50 - 10:20	10:30 - 12:00	12:50 - 14:20	14:30 - 16:00	16:10 - 17:40	18:00 - 19:30
2012/12/10	Mon						
2012/12/11	Tue					○ Oli 3209(合同ゼミ3)	○ Oli 3209(合同ゼミ3)
2012/12/12	Wed					○ Peter 3212(合同ゼミ4)	○ Peter 3212(合同ゼミ4)
2012/12/13	Thu						
2012/12/14	Fri						
2012/12/15	Sat	○ Tom 2108	○ Tom 2108	○ Tom 2108	○ Tom 2108		
		○ Alex C 2109					
2012/12/16	Sun						
2012/12/17	Mon						
2012/12/18	Tue					○ Tom 3212(合同ゼミ4)	○ Tom 3212(合同ゼミ4)
2012/12/19	Wed						
2012/12/20	Thu					○ Tom 3212(合同ゼミ4)	○ Tom 3212(合同ゼミ4)
2013/1/7	Mon					○ Martyn 2206	○ Martyn 2206
2013/1/8	Tue						
2013/1/9	Wed					○ Laura 2206	○ Laura 2206
2013/1/10	Thu						
2013/1/11	Fri						
2013/1/12	Sat	○ Connie 2108	○ Connie 2108	○ Connie 2108	○ Connie 2108		
		○ Graham M 2109					
2013/1/13	Sun						
2013/1/14	Mon					○ Martyn 2108	○ Martyn 2108
2013/1/15	Tue						
2013/1/16	Wed						

	Course A
	Course B

授業計画及び教材開発

授業実習で行う、理科授業及び日本文化授業の計画を行った。理科授業のトピックは、基本的に、工学研究科及び園芸学研究科（学部）の学生の研究内容とした。各ユニットの授業テーマの概要は以下の通りである。



ユニット	理科授業	日本文化
A	視覚と錯視	日本の学生生活と流行ファッション
B	トランジスタの機能と現在と未来のデバイス	東京の様々なエリア
C	Landscape Architecture	日本のお祭りと食事
D	Agroforestry	日本のスペース活用術
E	錯視	日本の学校生活と教育制度
F	How to Generate Electricity?: Let's use Solar Cell!	日本の便利グッズ
G	Experiment on LCD	Let's Play Shogi
H	Experiment on Photochemistry: Making a letter Stamp	日本の鉄道の正確さとその仕組み
I	バイオマス	日本の織物
J	なぜグリーンパブリカは苦いのか?	折り紙
K	光の屈折実験、水溶液の電気分解	

授業計画及び教材開発の授業において工夫した点は以下の4点である。

1. インドネシア留学生によるコメント

インドネシア留学生をTAとして雇用し、学生の授業テーマや授業計画に対してコメントをもらった。インドネシアの実態に即した指摘がなされ、教員経験やインドネシアへの渡航経験の無い学生にとっては、授業づくりにとって貴重な意見であった。また、そのやりとり自体が、国際交流の一環となっており、双方にとってメリットがあるように見受けられた。



2. 教材費の補助

理科の授業準備に必要な、教材費の申請を受け付けた。教材費の一部を負担することによって、より魅力のある理科教材を計画することができた。教材費の申請には、事務手続きの手間を省くために、購入希望物品を大学側で精査した後、学生に見積もり・発注・納品までを行わせた。このようにすることにより、学生にも教材選びに対する責任が生まれたように思われる。

3. 千葉大学とインドネシアの大学の学生同士による派遣事前打ち合わせ

各ユニットの代表者が、インドネシアのサポート学生にEメールで連絡を取り、理科授業で必要な器具等が学校にあるのかどうか、あるいは現地の具体的な教育事情などの情報について、派遣前に確認を行った。このようにすることで、学生の授業計画がよりインドネシアの現実に即したものとなった。また、事前にEメールでやりとりすることによって、現地での学生同士の交流がスムーズに行われた。

4. チューター制度の導入

授業計画をよりよいものにするために、また専門的な観点から不適切な内容がないか確認するために、各ユニットに担当教員を付けるというチューター制度を導入した。学生だけでは気づきにくい授業計画の不十分な点などが指摘され、授業計画がブラッシュアップされる機会となった。平成24年度チューター制度における担当教員、指導実施日は以下の通りである。

ユニット	実習日程	テーマ	担当の先生
A	1月28日－2月10日(日)	視覚と錯視	飯塚先生
B	1月28日－2月10日(日)	トランジスタの機能と現在と未来のデバイス	
J	2月18日(月)－3月3日(日)	なぜグリーンパブリカは苦いのか？	
C	2月4日(月)－2月17日(日)	Landscape Architecture	野村先生
D	2月4日(月)－2月17日(日)	Agroforestry	
E	2月11日(月)－2月24日(日)	錯視	山下先生
F	2月18日(月)－3月3日(日)	How to generate Electricity?: Let's use Solar Cell!!!	山野先生
G	2月18日(月)－3月3日(日)	Experiment on LCD	
H	2月18日(月)－3月3日(日)	Experiment on Photochemistry: Making a letter stamp	林先生
I	3月1日(月)－3月14日(日)	バイオマス	
K	2月18日(月)－3月3日(日)	光の屈折実験、水溶液の電気分解	東崎先生



クロスカルチャルトレーニング

千葉大学国際教育センターの協力の下、海外研修の心構え、安全対策等を含め、インドネシアの教育文化についての理解を図るための講座を開講した。インドネシアからの留学生を講師として招き、インドネシアの気候、国家の象徴、マナー、そして簡単なインドネシア語等について講義を行った。学生は文化の違いを改めて実感し、授業する際の服装など、様々な質問をしていた。

海外派遣にかかる準備・事前教育

国際教育センター

渡航前	渡航前オリエンテーション	事務手続き ・パスポート(有効期限の確認) ・ビザ+入国審査時に提示する書類の確認 ・航空券、海外旅行保険、 ・千葉大学危機管理システム(OSSMA)の説明、加入手続き 生活 ・医療/予防接種 ・銀行/クレジットカード ・持ち物(服装・携行品) ・現地の法規/マナー
	事前教育	クロスカルチャル・トレーニングの実施 ・カルチュラル・アウェアネス(自文化理解/異文化理解)トレーニング ・ファクト・オリエンテッド・トレーニング(滞在国の客観的情報・文化など把握) 日本語・日本事情プログラムの実施 ・日本語教授法 ・日本文化・日本事情プログラムの実施
	リスク・マネジメント(安全管理)準備	OSSMAを利用した安全管理 ・OSSMAロケーター(オンラインシステム)を使った学生情報の一元管理 ・渡航日程、パーソナル・データ、緊急連絡先、既往症、予防接種の記録等 ・医師による英語での各種証明書など(医薬品・既往症等)
渡航中	リスク・マネジメント(安全管理)	OSSMAを使った渡航中の安否確認 ・OSSMAからの安全情報(メール配信) ・医療・健康に関するOSSMA無料相談窓口の案内(365日、24時間対応) ・盗難・災害時等のOSSMA無料相談窓口の案内(365日、24時間対応)
	クライシス・マネジメント(危機対応)	・医療アシスタンス・サービス手配 ・救援者支援 ・パーソナル支援(盗難・紛失) ・メンタルケア支援 ・危機発生時の対応支援(マスコミ対応)
帰国後	フォローアップ	帰国報告会の実施 HP等での報告



TWINCLEプログラム研修報告会

学生が自らの研修を振り返り、この研修から得た学びを自覚化すること、TWINCLEプログラムの成果を公表し、来年度に向けた改善点を得ることを目的として、研修報告会を行った。

